



じりっ「自律と自立」

指 宿 高 等 学 校
進路指導部 第 3 号
発行日 R2. 5. 8 (金)

「Never Waste a Good Crisis」

この危機を無駄にするな！

グローバル化や高度情報化が進み、何が起ころるか分からない今の社会を生き抜くには、想定外のことが起きた時に、いかに自分を成長させられるかが重要になります。

新学年になってから約1か月が経ちます。ただし、新型コロナウイルスの影響で、学校は再開するものの、これまで通りの形で、教室に入れば授業を受けられる環境とは異なる状況にあります。我々には、自分で時間をコントロールし、自律した行動をとることが求められます。この機会を今後どう活用できるかを考えて行動しましょう。

意識を変えれば、行動が変わります。 目標を定めることで、今何をすべきかが分かり、これから先何を続けていくべきかが見えてきます。行動を変えれば、習慣が変わります。 将来の自分のために、今どれだけの「自己投資」ができるか、「自己投資」をするかということです。

土・日曜日は、だらけ過ぎないように、1日の時間割のようなものを作ろう！中間考査が5月13・14日(水・木)にあります。

「総合型選抜(旧:A0入試)、学校推薦型選抜(旧:推薦入試)とは？」

違いを知っておきましょう。「+ α 」^{アルファ}を評価してもらえるチャンス！

皆さんは、大学入学共通テストや国公立大学の個別試験を乗り越えられるための学力をつけられるよう、日々の授業や学習に取り組んでいかなければなりません。「大学全入時代」と言われることもあります。先輩方の受験した学校の中では、国公立大学の倍率は、私立大学等の倍率よりも高いと言わざるを得ません。

大学入試には、「一発勝負」である一般選抜とは別に、「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」があります。受験資格・条件は各大学によって異なりますが、大まかに言えば、「学力+ α 」を評価してもらえる入試制度です。国公立大学の「総合型選抜」と「学校推薦型」、2つの入試制度について下表に概要を示します。

	総合型選抜	学校推薦型選抜
評価内容	各大学の「アドミッション・ポリシー(求める学生像)」に適しているか。	一般入試と違い、学習状況や課外活動など日頃の努力を評価する。
求められるもの	学力だけでなく、「その大学で学びたい」という受験生の意欲や熱意。活動実績	評定平均値に基準があることが多い(=学力が要求される)。
学校長の推薦	原則不要。(校内の推薦委員会で確認)	必要。(校内の推薦委員会で審議。)
選抜方法	志望理由書・調査書・小論文・面接が多いが大学によって異なる。	書類審査(推薦書・志望理由書・調査書など)・小論文・面接・口頭試問が主体。
出願時期	9月～。合格発表時期が11月以降に。	11月～。合格発表時期が12月以降に。大学共通テストを課す場合は、入試が2月中旬に行われる。
その他	3年7月三者面談後から出願準備が本格化	選抜は <u>一回のみ</u> 。

「評定平均値?」「+αって?」～知っておきたい入試の知識

〔評定平均値とは?〕

「評定」とは、定期考査の結果や授業態度、課題の提出状況などをもとに総合的に評価したもので、通知表に載っている「5・4・3・2・1」のことです。

1年次から3年次のすべての科目の評定の合計数をすべての科目数で割って、小数点以下第2位を四捨五入して求めた数値が3年間の「評定平均値」となります。3年生の場合は1学期末に出される仮評定が使用され、出願時に提出する「調査書」に記載されます。この調査書は一般入試を含む、すべての受験で必要な書類です。

A	5.0 ~ 4.3
B	4.2 ~ 3.5
C	3.4 ~ 2.7
D	2.6 ~ 1.9
E	1.8 ~

また、評定平均値は左表のように A~E の5段階で成績概評として示されます。

総合型選抜や学校推薦型選抜の出願条件として、成績概評 A 以上を求める大学も少なくありません。学校長が特に優れていると認めた場合は⓪をつけることができますが、その⓪を条件とする大学もあります。

評定は上記の通り、定期考査の結果や授業・課題の取り組み状況がもたされます。言わば「毎日の積み重ね」の証です。気を抜いてもよいテスト、適当にやってもよい課題なんて一つもないんだということを心に留めて、毎日の学習に励み、1回1回の考査を大事にしましょう。だから、改めて、校内での考査の大切さが自然とわかってくるはずですよ。

〔「+α」って何だろう?〕

総合型選抜や学校推薦型選抜では、受験生の学力だけでなく、それ以外の部分(+α)を評価し、合否の判断材料としています。その時に重視されるのが、先にも述べた「調査書」です。

調査書には、その生徒がどういう学校生活を送ってきたかが分かるよう、成績以外にも出欠状況、特別活動の記録などが細かく記載されます。部活動や生徒会活動、検定の取得など、様々なことに取り組みれば取り組むほど、記載内容は増えることとなります。逆に、特に何も取り組んでいなければ、調査書に何も書き込まず、空欄のままとなります。調査書の内容(活動実績など)をそのまま点数化したり、面接時の参考資料としたりするので、調査書の記載が豊富な受験生ほど有利になるというわけです。学力以外として、以下のようなことが挙げられます。

- ・部活動での実績
- ・生徒会活動(執行委員、専門委員会など)
- ・校外のコンクール・コンテスト等の入賞実績
- ・継続的なボランティア活動
- ・職場体験や国際交流などの諸活動
- ・総合的な探求の時間「柏葉」で取り組んだ課題研究やそのレポート
- ・高校時代に取得した検定・資格(英検など)

高3年生になってから、高1・2年次の調査書を書き換えることは出来ません。早いうちから、充実した高校生活を送ることが、そのまま調査書の充実につながるのです。

「自己管理ができる人になろう」←例外を作らない!

入試で問われている隠れたテーマは「自己管理能力」だと思います。自己管理とは、自分の弱い部分を知り、周囲に振り回されない自分を保つことです。

そのためには、①時間の管理 ②体調の管理 ③気持ちの管理・コントロール を心がけよう! 帰宅時刻・学習開始時刻・就寝時刻・起床時刻を固定し、毎日同じことを繰り返していると、わずかな違いに気づき調整することができます。自分なりのルーティンを作ろう。